

平成 19 年度 資源メジャー・非鉄部門の動向調査 2007 = 解説 =

1. 本調査の目的

資源メジャーの非鉄金属部門を主体的に調査することにより、その経営状況、企業活動の動向、探鉱、開発、操業等の現況を把握し、日本側において鉱物資源・原料の安定確保を図っていく上での参考に資することを目的とする。

2. 資源メジャーの定義と企業方針・戦略の傾向

2-1. 資源メジャーとは

“資源メジャー”として明確な定義はないが、本調査においては次のような事項に該当する鉱物資源開発企業と見なすものとする。

- (1) グローバル・多国籍に事業展開している。
- (2) 鉱山開発をコアビジネスとし、下流分野(製錬、金属加工・製造)よりも上流分野を志向する。
- (3) 特定の金属鉱種、あるいは燃料鉱物も含め複数鉱種の上位生産者である。
- (4) オペレーションシップを有して大規模な鉱山開発・操業を行っている。
- (5) 強力な経営資源(技術・人材・設備資産)を有する。
- (6) M&A(合併・買収)により事業拡大と多国籍化・多鉱種化・寡占化を進め、バーゲニングパワーを強化している。
- (7) 不採算部門・ノンコア事業を容赦なく売却する。

2-2. 企業方針・戦略の傾向

中国はじめ BRICs 諸国の需要拡大による世界の鉱石・精鉱市場のタイト化、金属価格高騰に伴い、資源メジャー各社の財務状況は好転している。その状況にあって以下に要約できる従来の資源メジャーの企業方針・経営戦略の傾向は、ますます活発に展開されつつある。

- (1) M&A(企業買収・合併)と不採算・ノンコア事業の売却
鉱種・生産拠点の多様化、経営規模の拡大、及びスケールメリットの薄れた資産の売却
- (2) 増産・拡張と新規鉱山開発への投資
生産量の維持・拡大(銅・金などは深部化・低品位化等に対処)、低廉な生産コストの追求
- (3) 積極的な探鉱活動
鉱量の拡大と資源量から埋蔵量への確定(確定・可採鉱量の確保)

3. 調査対象企業23社

3-1. 選定した資源メジャー20社

上記2の該当項目に照らして次の20社を選定した。

1. BHP Billiton Ltd. / BHP Billiton plc (ビー・エイチ・ビーン・ビルトン社)
2. Anglo American plc (アングロ・アメリカン社)
3. Rio Tinto Group(リオ・テイント・グループ)
4. Vale: Companhia Vale do Rio Doce (ヴァレ社、旧 CVRD(リオ・ドセ社) ※2006年 Inco を買収)
5. Xstrata plc (エクストラータ社、※2005年に Falconbridge を買収)
6. CODELCO: Corporación Nacional del Cobre de Chile (コデルコ社)
7. FCX: Freeport McMoran Copper & Gold Inc. (フリーポート・マクモラン・カッパー・アント・ゴールド社、※2007年3月に Phelps Dodge を買収)